

ベトナム情報レポート（2021年4月29日）

コロナ禍において、製造業界の状況は昨年の中頃が一番苦しかったです。メーカーの工場稼働停止などの影響を受けた企業、中国から部材が入ってこない煽りを受けた企業など色々ありました。しかし、現在では多くの企業がほぼ元に戻った、あるいは昨年より忙しいと言っている企業もあります。

工業団地は契約間近だった企業、ポテンシャルのあった企業が、渡航できないという理由で、白紙撤回やペンディングといった連絡が相次ぎました。未だ通常渡航できないことが大きなネックとなっており厳しい状況です。しかし、コロナ前から続いている中国からの工場移管は続くと予想されており、実際、ある工業団地のレンタル工場の予約状況では、入居予定の70%は中国にも工場がある企業でした。

また、外注先探しの動きについても昨年末ごろから、まず調査から準備し始めようといった企業が増えてきました。これらの企業も今まで中国への外注が主だったものを、東南アジアからも入れようといった動きになっており、その中でもベトナムは相変わらず人気が高い状況が続いています。米中貿易摩擦、コロナ、コンテナ不足、日本の補助金などが要因で、今後も更に移管を考える企業が多くなると思われます。

現在、ビジネストラックを使った短期出張での入国はほぼ活用されていません（提出書類が非常に煩雑）。JALとANAが週1便ハノイとホーチミンに飛んでいますが、赴任者、その家族と2、3か月の中期出張者が主だと言われています。